

令和4年度第3回「墨田区子ども・子育て会議」議事要旨

日時：令和5年1月31日（火）午後6時30分～午後8時30分

会場：墨田区役所13階 131会議室

次 第

1 開会

2 報告事項

(1) 区への答申について

- ・乳幼児を対象とした今後の子育て支援施策について
- ・今後の子どもの放課後の居場所作りのあり方について

3 閉会

配布資料

資料1

乳幼児を対象とした今後の子育て支援施策及び放課後の居場所作りのあり方について（答申）【案】

資料2

答申を受けて考える「放課後の居場所作りのあり方」について【古屋准教授】

出席者(敬称略)

○委員

西村 孝幸 (小梅保育園長)
西島 由美 (にしじま小児科院長)
野原 健治 (社会福祉法人興望館理事長)
浅見 佳子 (相模女子大学准教授)
古屋 真 (駒沢女子短期大学准教授)
八重田 裕一朗 (墨田児童会館館長)
小林 恵子 (両国子育てひろば施設長)
末田 豪 (立花吾孀の森小学校PTA会長)
平林 秀敏 (墨田中学校PTA会長)
尾口 優子 (青少年委員協議会委員)
山口 仁美 (両中地区青少年育成委員会委員長)
種窪 茉莉 (マミーズエンジェル墨田みなみ保育園施設長)
賀川 祐二 (NPO法人 病児保育を作る会代表理事)
山内 好恵 (ル・アンジェ両国保育園施設長)
佐藤 雅代 (区民公募委員)
谷津田 真央 (区民公募委員)
宮田 宏子 (立花幼稚園長)
島田 和久 (押上小学校長)
佐藤 順一 (吾孀立花中学校長)
國分 幸美 (花園保育園長)

<欠席委員>

岡田 真 (江東学園幼稚園長)
眞能 貴代 (区民公募委員)
横田 絵美 (区民公募委員)

<傍聴者>

1名

○事務局出席者

酒井 敏春 (子ども・子育て支援部長)、宮本 知幸 (教育委員会事務局次長)、石岡 克己 (子育て支援課長)、大八木 努 (子育て政策課長)、高橋 淳一 (子ども施設課長)、坂田 勝彦 (子育て支援総合センター館長)、梅原 和恵 (子ども・子育て支援部副参事 (子ども・家庭支援連携担当))、瀧澤 俊享 (障害者福祉課長)、堀 啓一 (地域教育支援課)

開会

2 報告事項

<p>会長</p>	<p>次第「2 報告事項」「(1) 区への答申について」ですが、今年度、区からの諮問事項について、乳幼児と学齢のワーキンググループ（以下、「WG」と表記）においてそれぞれ検討を行ってきました。活発な御意見ありがとうございました。その各WGで話し合われた意見をまとめ、資料1の答申案として作成させていただきました。各WG長からご説明をさせていただきたいと思います。では、まずは「乳幼児を対象とした今後の子育て支援施策について」になりますが、乳幼児WGで話し合った内容の答申案について、私から説明をさせていただきます。</p> <p>（資料1に基づいて説明）</p> <p>では、次に「今後の子どもの放課後の居場所作りのあり方について」になりますが、学齢WGで話し合った内容の答申案について、野原WG長からご説明をお願いいたします。</p>
<p>野原WG長</p>	<p>学齢WGでは今後の放課後の居場所のあり方について検討しました。</p> <p>（資料1に基づいて説明）</p> <p>ここに示された提案で御意見、御感想をいただければと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございました。御説明させていただきました答申案については、乳幼児と学齢のWGにおいて、3回に渡って話し合ってきた内容を基に、方向性を出して作成したものです。本日、会議の皆様から合意をいただいて、この内容で墨田区長にお渡ししたいと考えておりますが、皆様から最終的に答申案についての御意見がありましたら、お伺いしたいと思います。また、現任期の委員の皆様による子ども・子育て会議としては、本日が最後の会議となりますので、任期を通して、御意見や御感想等、お一人ずつ、順番にお伺いできればと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>学齢の方に参加させていただいて、子ども達が地域の皆様と携わりながら日々過ごしていることを実感したとともに、放課後子ども教室との連携であったり、学童クラブの課題は今後も引き続きあるものと思っております。量が増えて人材確保の問題や質の問題は、これから地域に出向きながら地域の方たちとやっていかななくてはいけないなと思っております。実際に地域で仕事をしている中で、不登校、ヤングケアラー、支援の必要なお子さん、ご家庭の支援をどうしていくかというのは、今後も考えていかなければいけないと思いますし、こういった答申によって一つずつクリアしていくことで、そういうお子さんたちに目を向けられる施策が出来上がってくると、これからの未来を担う子どもたちにとって素敵な未来が見えてくるのではないかと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>答申のところで、いろんな部門が今後協力しながら関わり考えていくということを記載していただいているので、放課後子ども教室を中心とした子どもの居場所作りができていくのかなと思っております。すごくありがたく思っております。ありがとうございます。来年度でいうところだと、子ども食堂を考えていただけるとありがたいと思っております。いろいろと勉強させていただきました。ありがとうございました。</p>
<p>委員</p>	<p>1つだけ気になるので申し上げますが、少子化による将来の保育需要の減少を見据えてという部分が、後手に回ってしまっているのかなと思います。改めて子どもをたくさん産んでくれる墨田区になってもらって、活性化していく方向に、マイナスの方向に行くのではなく、</p>

	<p>プラスの方向に今後議論していただけるともっと良くなるのかなと思いました。ありがとうございました。</p>
委員	<p>乳幼児WGに参加し、課題にもある、療育と在宅子育て支援について参加させていただきました。療育に関しては、私も実際の現場は見たことはありませんが、保育体制を整えている区と、保護者の意識のギャップがあるのかなと感じました。保護者は自分の子どもは違うと思っている、そこの埋め合わせは歩み寄りというか、保護者側も療育とはどういったことが必要かの意識は必要ですし、区としても分かってもらえる取組が必要かと思います。在宅は子育ての孤立感があって、児童施設が近くにない地域の方々をどうケアするかは今後議論を重ねていただければと思います。こういった機会をいただき、実際の現場の声とか議論に参加させていただき、すごく勉強になりましたし、子どもを育てていく中で、活かしていきたいなと思いました。ありがとうございました。</p>
委員	<p>この会議に参加させていただいて、様々な立場、視点からいろんな方が集まって多角的、多面的に子ども・子育てということで話し合いが深まったと思っています。今後の課題、園の現場でも感じているのですが、外国籍のお子さんへの支援の部分や、子育て支援総合センターにつながるような家庭、療育が心配という家庭もあるので、保護者の方が誰にも言えなくて困っている声を、私たちがどう把握していったらいいかという部分を今後続けていければと思います。</p>
委員	<p>会議を進めていく中で、色々な課題をこれからどうするか本気で考えないと解決はないなと思いました。子育ては大変とか無理とか若い人が思っている世の中から、子どもっていいなと思ってもらえるような、本来の人間が子どもを本当に大事にしていく方向性に持っていきながら、何か困った時に、すぐに聞いてあげられる区の体制を作っていくのが必要だと思います。色々勉強になりました。ありがとうございました。</p>
委員	<p>私は普段中学生を見ていて、何か役に立ちたいとか、子どもが好きだという生徒を支援できないかなと考えているが、学校単位だと教員も動かさないといけなくて、働き方改革の中で教員をこれ以上苦しめたくないという思いとか、うまく子どものニーズと人手不足の問題をマッチングできるものが何かできないかなということを経験している中で考えていて、学校としては、ボランティア精神を育みたいという気持ちがあり、その辺を解決できるいい方法はないか、いつも考えています。ありがとうございました。</p>
委員	<p>保育の現場では個別支援が必要なお子さんもいて、また、待機児童が今まではいたが、辞退をする人も出てきて、今では入れてというのがあって、これから育休制度が伸びたりとかもあって、保育園の定数も見直していくべきなのかなというのは感じています。会議への参加で、保育園、幼稚園でも個別支援が必要なお子さんが増えていると感じているので、この辺りが今後大きな課題になっていくと感じながら、改善されていくことを期待しています。</p>
委員	<p>保育士は人気のある職業だったのに、どうしてこんなに保育士不足になってしまったのだろうか。私の小さい頃から、三大なりたい職業だったはずなのにどうしてかなっていうと、すぐにニュースに載ってしまうとか、目を隠されて施設長が出るとかそういうイメージが最近はずごく強くなっている。氷山の一角がニュースになっているのが現状で、こんな責任のある仕事は嫌だという若い先生がいるのも現状で、その辺も施設長として、これだけ周りの人が助けてくれるよとか、保育士も自信をもって楽しい保育ができるように質の向上を目指して保育園をやっていききたいと思います。</p>

委員	<p>ここ10年位で変化を感じるのは、お子さんより親御さんの変化を非常に感じています。もともと困難な状況を抱える親御さんはいましたが、数が増えているのと、いろいろな状況が複合的になってきていて対応が難しくなっているなど肌感覚で感じています。お子さんが生まれてから、生まれる前のスタートをどう切れるかが大事なのかなど。乳幼児WGで申し上げているのは、相談ではなく仲間を作って、痛みを友人とかと分かち合いながら対応できるのがいいのではないかとということで、子育てひろばがいろんな所にあるといいなと話させていただきました。学齢WGは参加していませんが、学童クラブの支援員の話が出ていましたが、(すみだ子育て支援ネット)「はぐ」は、子育て支援員の制度ができた年からファミリー・サポート・センターの子育て支援員ですが、国の制度に則って、支援員の育成を数年に渡って行っています。学童クラブとか子育てひろばの基礎研修は丸きり同じものですし、あと数時間だけ追加で勉強すれば、そういった枠の保育の支援の資格を取れるので、全体でそういうところを確保したいというお話があれば、是非御検討していただきたいと思いません。</p>
委員	<p>今まで知らなかった墨田区や他の施設の取組を知ることができてとても勉強になりました。認証保育所は昨年度に比べると申込数が減ってきているので、今後、保護者の方のニーズに合わせた質の向上を図っていけるように墨田区と一緒に頑張っていきたいのでよろしくお願いいたします。</p>
委員	<p>放課後の居場所作りのWGに参加させていただきましたが、この放課後事業が大変難しいのを実感しました。現状の子ども達の放課後の遊び場を考えると、思い切り公園で遊ぶこともできず、仲間と集まって遊ぶ場所もなく、マンションが多いところでは、大勢の子どもが集まることもできずという、子どもたちの放課後の現状を見ると、放課後子ども教室は大切なもので今後も進めていかなければならないと実感しました。「みどりっ子クラブ」を立ち上げた時よりも、今のほうが皆様の意識が上がっていると感じたので、今後は放課後子ども教室も発展するのではという感想を持ちました。</p>
委員	<p>子どもが4人いて、4人目を産む決心をしたのが墨田区に引っ越した頃でした。少しでもお役に立てればと思って、こちらの会議に出席させていただいております。引っ越してきた17年前と比べても、状況は変わっていると思いますが、愛すべき墨田区であることには変わりなく、個人的な話ですが4人目を産もうと思ったのが、引っ越してきたばかりの見ず知らずの私に、近所のおばあちゃんが保育園にお子さんを預けて緊急引き取り先がなければうちを書いてもいいわよと言ってくれたんですね。それがすごくありがたく、なんて温かい所だろうと。墨田区で子育てをさせていただいて、うちの子どもたちは大きくなりましたが、今私個人的に高齢者の方と接する機会が多くなりまして、地元にもっと貢献したい、私たち元気です、子どもたちと触れ合いたいというお話を伺う機会がありまして、この会議に参加させていただき、子どもたちを対象とした話し合いの場ではありますが、多角的に見ていかなければならない問題なのかなと感じました。この会議に出席し、私なりに皆さんから色々な意見を聞き、考えたりしていますが、自分でできる草の根活動的なことを続けて、高齢の元気な方々と子どもたちをつなぐ橋渡しとして、何ができるかなということを考えていきたいと思いません。大変勉強になりました。ありがとうございます。</p>
委員	<p>私は3人の子育てでヒーヒー言っているのですが、子どもが4人もいて、地域の活動もしていて、スーパー区民だなど思いました。そういった区民が生まれる子育てしやすい墨田区に</p>

	<p>なっていくきっかけになればと感じたところです。私は学齢WGに参加させていただきました。PTAでも関わっていると思うのが、教育部門だけでやるのは限界があると思います。ここに書いてある通り、福祉部門、教育部門、地域団体、様々な部門が連携するのはいい機会なのかなと思いました。放課後子ども教室における課題ということで、高齢者施策、地域福祉施策と連携したというのは大きいかなと思います。子どもを取り巻く環境の中で、放課後子ども教室についても、地域の人材をどう活かすかが大きな議論になっていますし、地域の様々な資源を総動員してそれを子どもたちに提供していく、情報発信が必要ではないか。様々な部門の連携が重要です。どうしても行政については、法律を根拠に部局が設置という縦割りは仕方ないですが、事業の連携をしていくことは重要なと考えておりますので、高齢者施策、地域福祉施策のところもすごく重要なと感じまして、地域というのは墨田区、墨田区の福祉の福とは、心の幸せで、墨田区民が幸せになるように、福祉の祉は仕事の仕、そこに留まるようにという意味がありますので、色々な方たちが力を合わせながら、墨田区民の子どもたちの幸せのために一緒に動いていこうと、行動していこうということが地域福祉で、地域福祉政策の地域福祉計画は福祉の上位計画になるので、上位計画を担う施策部門が墨田区の子育てのところに事業として一緒に連携していくということは、子ども・子育て会議の事務局に教育と子ども施策、地域福祉教育の中に、障害者福祉の課長さんも参加しているところもあり、ここに高齢と地域福祉が加わって、みんなで議論していくような会議体できてきて、そこで一緒にやっっていこうよとなれば、子どもと子育てについては最強の会議体になるのかなと感じますので、より発展していただければと思います。行政職員が推進するのではなく、委員の人たちが、検討会の中で出た答申をそれぞれの団体に持ち帰って、その団体同士でどう連携を図っていくか、我々がしっかりと行っていかなければ、当事者にならないといけないというところがあるので、我々の役割として広めていくことが重要なと思いました。</p>
委員	<p>子育てひろばには、たくさんの親子が日中遊びに来ます。いろいろなご相談を受けたり、お母さん同士、お父さん同士を結び付ける仕事をさせていただいている。今の話にもありましたが、3人しかいないから4人目を産むという決意はすごいと思います。少子化の問題がかなり深刻になってきていますが、子育てひろばがあるから、もう1人産めそうだなって思ってもらえたりとか、何かあったら相談しに行こうと思ってもらえるような施設、墨田区の中でそういう役割を持てる施設になりたいというのは、この会議に参加して強く思ったことです。高齢者の方の活躍の場としてぜひ子育てひろばを使っていただきたい。コロナ前は、高齢者の地域のボランティアの方たちが、託児付きのイベントをするときに、おじいちゃん、おばあちゃんが来て赤ちゃんを託児してくれるということがあったが、コロナのせいで今まで来てくれていた方たちが自信を無くしてしまい、3年休んだからもう無理とおっしゃる方が多いので、もしやってみたいという高齢者の方がいらしたらご連絡ください。中学生のボランティアとしても子育てひろばは有効だと思います。両国中学校の皆さんが職業体験で毎年来てくださっていたが、コロナを境に来なくなって寂しいです。思春期くらいのお子さんが赤ちゃんや子育てするお母さんの姿を見るのは価値のあることではないかなと思いますので、これをきっかけに地域の皆さんと今までよりもっと密に繋がっていけたらと思っていますので、引き続きよろしく願いいたします。</p>
委員	<p>乳幼児の量の拡大は一定の成果を収めたとありますが、1歳児のお母さんから保育園に入れ</p>

るか分かりませんと毎日言われます。なので、育休をちゃんと取って復職したい、できれば上のお子さんと同じ保育園に入りたい、そういった方がしっかりと保育園に入れる環境作りをぜひよろしくお願いいたします。そのためには0歳児の枠を減らすことも必要かと思えます。定員割れをしたなら、定員を減らすと感染対策に良いと思えます。学校もできるなら20人学級位にしてもらえるとマスクしなくても全然いいかなと実は思っています。定員割れして困ったところは、ぜひ子育てひろばにしませんか。たくさん作っていただきたいです。今日も、タワーマンションで1人目のお子さんが見つめ合って暮らしている方の健診をしましたが、子育てひろばに行ってみてはと勧めました。子育てアプリも勧めました。私は墨田区で育っていて、家の中で人が寝ているのも見えるし、隣の家のご飯はみんな知っている状態でしたが、今はそういう時代ではなく、周りも再開発でタワーマンションだらけになって、みんな何やっているか分からない中で、全然分からない子育てを1人でやっていくのは難しいと思えます。育児は本能ではできないと思えます。みんなSNSで調べて間違ったやり方とかが多いので、ぜひ子育てひろばで、お年寄りも遊びに行っていて、手伝ってもらって、中学生も行っていただいて、そういう場合は管理者をしっかりしないと問題が起きるので、区としてはきちんと管理をする方を配置していただくとか、それに伴い、放課後子ども教室のボランティアという意見も出ていましたが、異次元の子育て支援でしたら是非お金を出していただきたい。予算のつかない事業なんてありません。日本の信じられないところは、なんでもボランティアで済ませようとするところです。安くてもいいです、お金つけてください。療育機関の設備、コマーシャルベースで企業がやっていて、数もあるがお金がなければ通えません。葛飾区では、区民に対して療育に通うためのお金を出していますので、墨田区でもぜひ考えていただきたい。子育ての目的は、その子が自分で稼いで楽しく暮らせることだと思う。算数ができなくても英語ができなくても一人前の社会人として認められて、自分で稼いだお金を使って生きていけることだと思います。そのために何が必要か皆さんで考えていただいて、放課後子ども教室もいいですが、先生の資料を見ていましたら、若者や子どもが挙げるのは、好きなことをして自由にいられる場所が欲しいと書いてあるんですね。教室だけではなくそういう場所が増えるといいなと思いました。東京都に対しては、子育て世帯に5,000円支給するのではなく、給食費を無料にして欲しいと思えます。給食費の単価を上げていただいて、タンパク質を増やしていただいて、とりあえず学校で一食きちんと食べていただければ、子ども食堂もそこまでいらなないと思えます。子ども食堂がなくてもいい世の中を作らなきゃいけないと思えます。少子化対策とありますが、子どもを産める女性の年齢には限りがあります。20~30数年経たないと、子どもを産む人は増えないと思えます。今すぐV字回復はしません。子どもが育ってもそこから40年くらい自分の人生があります。そうするとお母さんも仕事を辞めたくないです。辞めないで済むように、しゃかりきになって3倍働かなくても済むように、世の中を作らない限りは少子化なんてどうにもならないと思っています。私も3人子どもがいます。ただ私は母が近くにいたのでやってこられましたけど、今はそういう状態じゃないし、先ほど話した子育て中の方は、お父さんとお母さんの職場の中間地点に住んでいるそうです。二人とも片道一時間半、何かあったらどうするの、学校で何かあって呼び出されたらどうするのと聞かなきゃならない。そういうことも考えて住むところも決めなければいけない。それに代わる、何かあった時にとりあえず見てくれる場所も考えなければいけないかなと思えます。

委員	<p>子ども・子育て新制度の前が次世代育成行動計画を検討するというので、子ども・子育て会議に参加させていただきました。当時はひろば事業をやったことがなくて、それを計画に入れるということで、今、文花と両国にあります。病後児の保育をどうするかということで「はぐ」が始動しました。子ども家庭支援センターも次世代の中に入れようということで国の動きもあり、子育て支援総合センターができました。要対協の地域対策協議会も発足されガイドラインができ、新制度になったわけです。これは次世代であるものを、保育等に入れない子どもたちをどうするのか、あとは障害の発達の課題等どうするのか、療育関係どうするのかということが焦点になると思います。社会的養護の取組をどうするのか等を話してきたと思います。墨田区が独自性を持って子ども・子育て会議の中で取り上げたこととしては、児童館の存在、子どもたちの砦として、新制度の計画を作り、子ども・子育て会議の特別委員会を作って、児童館の権利、国が引き上げたため、墨田区独自です。墨田区はやり続けて今日に至っている。子ども・子育て会議も原動力になったことを御認識の方がいいのではないかと思います。今後子どもの事柄で、学童クラブの増設、放課後子ども教室のバックにあるものとして、児童館の存在、墨田区が独自にこれに取り組もうということは、申し上げておきたいところかなと思います。あと、地域福祉の話が出ましたが、地域福祉の視野をみんなで持ち合うことは必要だと思います。問題意識の集団のことをプラットフォームという新しいネーミングにして、墨田区のプラットフォーム論というもの地域福祉推進の中に書かれています。それも頭の中に入れておく必要があります。児童館も地域福祉施設としての機能が求められるし必要性が高まるだろうと思っております。児童館のこと、地域福祉のこと、次世代行動計画、新制度、答申ということでお役にたてればと思います。提案ですが、社会的養護を子ども・子育て会議の中で取り上げていただけるといいかなと思います。今、子育て支援総合センターが取り組んでいると思いますので。</p>
会長	<p>この会議に関すること、子どもに関すること、子育てに関すること、答申に関すること、御意見をいただきました。学識の先生お二人いらっしゃいますので、まず古屋先生から学識の立場から一言いただけますでしょうか。</p>
古屋委員	<p>コメントに先立ちましてまず1点、墨田区の子ども達のためにお集まりになってそれぞれの現場で御活躍されていることに対して、私からも最大限の敬意を表したいと思います。そういった中で部外者と言えば部外者なので、大変差し出がましいところはあると思いますが、資料2ということで作成させていただきました。私からは3つの視点で、放課後の居場所のあり方について改めて考えてみました。1点目が研究、2点目が調査、3点目が法律になります。1点目の研究ですが、藤原さんという方が2010年に行った研究がございますが、それぞれの分野、教育学、社会学、心理学などの分野で行われている居場所研究です。その中で居場所をどう定義しているのかということ藤原さんは調べて、10個に分類されています。一部かいつまんで、一つは、①社会生活の拠点となる物理的な意味での場。そのまま場所、空間ということですね。⑩安全な場（保護されていると感じる場・安全が保障されている場）。こういった①や⑩に関しては、まさに、学童クラブの待機児童問題に直結するようところで、墨田区の喫緊の課題になっていると思いますし、学齢ワーキングでもかなり議論されたところだと思います。かたや②自由な場（管理強制からの自由、時間ペース選択の自由、大人や権力からの自由、比較評価からの自由、開放感）。⑦他社や社会とのつながりがある場。⑧遊びや活動を行う場、将来のために多様な学び・体験ができる成長の場。こ</p>

	<p>ういった、②や⑦や⑧に関する議論を思い返すと、学齢ワーキングの中では、はじめに野原先生もおっしゃっていましたが、こういった気持ちは皆さん前提に持ってご議論されていたとは思いますが、もう少しこのあたり丁寧に議論してもよかったのかなと思います。2点目が調査ですね。これは近々に行われた調査で、去年の12月から1月上旬にかけて内閣府こども家庭庁設立準備室が行った調査になります。小学生から30歳までのこども・若者約2,000名を対象に居場所がありますかと尋ねて、居場所があると回答した1,289名のこども・若者の回答を抜粋したものです。このグラフを見ていただくと、まさに祖父母、親戚の家、友達の家、児童クラブや習い事、学校等というところで、先生方が御活躍されているところを居場所と答えたこどももいる一方で、地域の人が開いている遊び場や、無料で勉強をみてる場所や食事や軽食を安く食べられるところ、こういったところに関しては、こどもが居場所としてあまり挙げていないというようなところがあって、こういったところを増やしていくような議論も必要なのかなと思いました。裏面になります。そういった居場所はどのようなところか、こどもたちが答えたのですが、1番多いものは、好きなことをして自由に過ごせるということです。その他、いつでも行きたい時に行ける、新しいことや、やりたいことにチャレンジできる、色々な人と出会える、友人と一緒に過ごせる、こういったところをこどもたちは居場所と感じていることも分かります。少し厳しい言い方になりますが、空間、場所を用意してもこどもがこういう感覚を持ってないと居場所にならない。なので、こどもの気持ちもしっかり吸い上げた居場所を作っていかなければいけないのかなと私は思いました。今年の4月から施行されるこども基本法にも書かれています。第11条にはこども施策に対するこども等の意見の反映というようなことも書かれていますし、第14条の方では、答申案の中にありました通り、関係者相互の連携が重要であるというようなことも書かれています。連携を土台としながらも、実際墨田区のこどもたちに、居場所ってどんなところが欲しいか疑問を含めて意見を聴取するような場所や機会を設けることが非常に重要なのではないかと思います。そういった実例はないのか調べたら、千葉市どこでもこどもカフェという名称で今は展開されているようですが、このカフェを運営したい方には千葉市から運営の助成もあるということで、安全面の運営という点では制度上難しいところもありますが、地域の方を積極的に活躍したい、活用しようということを応援している他の行政区もあるので、参考にしながら、こどもたちの意見も聞きながら居場所というのを考えていきたいなと思いました。</p>
<p>浅見委員</p>	<p>全体を振り返ってお話しさせていただければと思います。乳幼児ワーキングにおいても、学齢ワーキングにおいてもこどもの声にどれだけ耳を傾けられるかが重要であることは皆さんも理解していることだと思います。学齢期のこどもであれば自分たちの考えを出し合ったりとか、対話していくこともできると思うので、こどもも参加しての居場所作りというものを考えていくことも重要だと思います。乳幼児期であっても個別的な支援が必要なこどもたちであっても、こどもと共に考えるという姿勢を持ち続けるということは何よりも大事なことであり、忘れてはならないことだと思います。乳幼児のこどもたちというのは、言葉では十分に表現できないこともありますし、学齢のこどもであってもそういうことがあるかと思っています。その時に大事なことは、私もそうしていますし、現場の先生とも話すことですが、こどもの姿に聞くということに心がけています。言葉ではない、声にならないこどもの声を聞いていくといった時に、何をするかというと、こどもの姿を見ていくということです。</p>

	<p>が、子どもの姿に聞いていく、問いかけていくということが大事で、大きい子、小さい子関係ないと思います。言葉ではなく、その子が何を伝えようとしているのか、なぜそういう状況になっているのかというところを、ひとつひとつ丁寧に聞いていく。そのことに目を向けていくことがとても大事だと思います。その子にとって、関わりは心地よいものなのか、この場所が子どもたちにとってベストな環境なのかというのを、子どもの姿に聞きながらひとつひとつ大人たちが考えていくというのが、子どもの生活とか子どもの居場所とか、子どもたちに必要なその質の単語っていうものに繋がっていくのではないかなと思います。在宅子育て家庭への支援とか、子ども・子育てに関わる利便等についても、ひと家庭ひと家庭の声にどれだけ耳を傾けることができるかということだと思います。そんな簡単ではないことは誰もが分かっていることで、その声を聞いたり、その声に少しでも気づけるのは誰かと言ったら、現場の先生であったり、現場でそういう方たちと関わる皆さんたちなのかなと思っています。当事者の現場の声っていうのがなによりも重要な声だというのは言うまでもありません。その声を大切にしながらこのような取組を引き続き行っていくことは重要なことで、区長に届けるというのが答申になるのかなと思います。先ほどのお話に繋がっていくと思いますが、区長に届けるのと同時に、ここの委員の方たちが領域等を超えて、お互いの場所に足を運んでみるとか、委員がこれで終わりとなった時も、これで終わりではなくて、学齢と乳幼児と分かれて、それで話し合うのも大事ですが、その領域を超えて話し合っていくとか、お互いの現場に足を運んでみるとか、そこにまた違う視点で現場の声を聞いてみるとか、子どもの声を聞いてみるのもそうだし、地域の中で活発に連携が生まれていくと、そこから新たなアイデアとか取組に対する提案がさらに広がっていくのではと思っています。その中で、現場の中から、領域を超えた中から、こういう取組ができるのではないかと、こことここをリンクしてみてもいいとか、意外とやっているようで枠を超えていないことがあるのではないかと。現場を通してやっているとある。中学校の連携といったところでも、長と長なら話は進みやすいとかもあると思いますし、現場の中でもお互いの、公開保育じゃないが、お互いの学校に相互に行ってみたり、子どもの声を中学校の先生が聞くのも大事だし、そうじゃない大人が聞くのも大事だし、幼稚園の子どもたちも同じです。そういったところで化学反応が生まれたりアイデアが生まれたりするのではないかなと思っています。そういうところから出てきたものを、絶対に実現するぞというのがこの会議であって、委員の皆さんの力になるのではと思っています。これからは様々な課題があると思いますが、私自身も足を運べていなかったもので、運ぶことができたならよかったなと思っていますが、機会があれば現場に伺って、自分自身も学んでいきたいなと思っています。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございました。本日最後の会議ということで、出席いただいている委員の皆様全員からお話を伺いました。1年間議論してきたことがようやく答申としてまとまりました。この答申を含めて、皆さんの思いも受け止めて区長へ渡したいと思っています。この会議を持ちまして、答申（案）を答申という形にさせていただきたいと思っています。よろしくお願いたします。この会議体でつたないとりまとめ役ではありましたが、務めさせていただいたので、最後に一言御礼の御挨拶させていただきます。皆様、活発な御議論をいただきありがとうございました。各界の代表の皆様にお集まりいただき、御議論いただきましたので、それぞれの立場からの発言が私自身勉強になりました。私自身は保育園の園長として、日々乳幼児の子どもたちと関わっていますが、保育園の子どもを取り巻く環境、状況は毎年のように変わ</p>

ってきているなど切実に感じているところです。本当に5年前は保育園をどう増やすのかという話の一色だったと思います。今はようやく質を上げようと軸足が置かれた。進むべき方向に一步ずつ進んでいるのかなと思っています。古屋先生から紹介があった、こども基本法が成立し、来年にはこども家庭庁ができるということで、子ども・子育てに係る仕組みが大きく変わろうとしている中にあると思います。国の動きを注視していかなければならない。私たちの墨田区を考えると、皆様が地域の中で活躍する中で、みんなで子どもを育てるのが大事だと思っています。日々感じていることですが、墨田区はとっても風通しが良く、話ができる関係だと思っています。事務局にこれだけ多くの部長さん、課長さんがお集まりいただいて皆さんの意見を聞いていただいています。それぞれの立場の中で、取り入れてもらえるものは今後の施策の中で反映いただけるものと思います。核となるものはこの答申ということで、しっかりお渡ししたいと思います。この任期の会議体は終了としますが、顔が見える関係になり、地域の中でまたお目にかかることもあるかと思っています。その時は気楽にお話させていただければと思います。会議の内容も大事ですが、人と人との繋がりもこれからの子育ての中で活かしていただきたい。子どもが安心して暮らせるまちになっていければと思っています。限られた回数になりましたがおまとめいただきありがとうございました。それでは、これをもちまして、令和4年度第3回「墨田区子ども・子育て会議」を閉会いたします。

閉会

以上